

目的 和服構成の前処理としての地直しについては、絹織物について2・3の報告をしてきたが、今回は、学校教育で取り扱う頻度の多い、木綿巾かた地とウール地について、地直し方法の適否について検討したので報告する。

方法 試料は、木綿巾かた地、ウール地の2種を用い、地直し方法は、④乾熱アイロン ⑤蒸気アイロン ⑥湯通しの3方法について検討し、風合い、可縫性、縫いつけ等、物理的特性の諸実験・官能テスト等により検討した。

結果 物理的特性のうち、柔かさに関するドレープ性・剛軟度・せん断剛性・官能テストの結果では、木綿地は、⑥>原布>④⑤の順となり、ウール地は、⑥>④>⑤>原布の順であった。しわ回復については、防しわ度、サンレイテストの結果は、木綿地は、⑥>⑤>④>原布の順に効果がみられた。可縫性については、官能テストの結果、木綿地は、⑥>④⑤>原布の順に、ウール地は、⑥>⑤>④>原布の順に効果がみられた。縫製後の寸法安定性については、木綿・ウール地ともにたて方向では、⑥>⑤>④の順に効果が大きであったが、よこ方向で伸展がみられ、布の腰のへたりなどの点では湯通し処理に欠点がみられた。以上の結果から、木綿地・ウール地の地直しは、蒸気アイロンで、ていねいに行なう地直しが有効であり、2~3時間放置後裁断にかかるのが望ましいという結果を得た。